明治三十八年一月十四日 第三種郵便物認可

# 朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
陰曆甲辰一月一日

定價 壹ヶ月 金參拾錢 (前金ナクシテ送付セズ) 壹ヶ月分金拾三錢

廣告 五號活字十九字詰 壹行壹日 金拾三錢 三日以上 金七錢 五日以上 金五錢 特別同 金貳拾錢

發行兼 萩生彥
印刷人
編輯人 段原 頌

發行所 韓國釜山港大廳町二十七番地 朝鮮日報社

京釜鐵道 列車發着時間表

草梁 釜山 … 大邱 新洞 倭館 若木 … 黄澗 秋風嶺 永同 深川 伊院 … 大田 新灘津 芙江 馬尾 鳥致院 … 小井里 天安 成歡 … 烏山 水原 富谷 軍浦場 … [illegible]

雜錄

## ●慶尚道事情に關する釜山領事館の調査(續)

葬祭に於ては全く本邦の如く僧侶を要せず死者の生前に頗る佛を信し極樂往生を願ふものと雖も尚は佛式に依らず唯其遺骸に新調の麻衣を着せしめ麻布を以て四肢胴體を緊縛し貴重なる衣服器具は共に之れを本棺に納め以て寝室に安置し入棺後四日に至りて出棺し爾後親戚家人大に哭泣するを以て儀式とす又若し途上麻布にて調製したる頭巾を被き廣袖を麻布に製し或は竹にて編したる深笠を被るものを見んか是喪中の人にして公務を執らず他人に近接せず唯だ哀悲の爲め僅々外出せるものと知るべし

家屋は稍低く小窓ありて多くは藁葺なり稀に瓦を用ゆる者あれども富者にあらざれば官衙公署なり而して床下には壙を設け石を以て之れを築き縦横に細径を通し泥土を以て之れを塗り屋外に焚口を開き屋後に煙突を設け四時共に薪を燃き以て室を煖む之れを温突と云ふ室内は土床にして其上に荏子油にて塗布したる紙又は蓆を敷く其室の廣さは大抵我邦の八疊敷狹きは二三疊にして一戸にして兩室を有するあり若くは三四室を備ふるあり貧富に應して其大小廣狹を異にすと雖も構造は略同一なり而して鍵食は此室内に於てする炊事等は大概戸外に陳列し置くなり

韓人の食物は米麥粟稗等を常食とし副食としては野菜魚類獸肉等を用ゆ又市上等に於ては餅酒菓子魚肉類を陳列して街頭に販賣す其他犬或は牛頭の皮を剝去したる儘に三個に切斷せるものを大釜に投し鑪を以て煮沸し其煮汁及び肉片を食するを見る

韓人の衣服は白衣にして男子は大抵筒袖の上衣袴を着す田畑を耕すものも又同様の着衣なれば泥土其他の爲めに汚染せられ本邦農民の如くに輕裝敏活ならず又服襟には剪裁に供する小刀と添ふるに食箸とを垂す其他は前腰膝下には小嚢を佩び嚢中には煙草其他の雜具を藏む又携ふる所の煙管は長さ二尺余あり

女子は髮を漲て頭上に圏結し笄を挿む上衣は男子と異なり甚だ短かく漸く乳頭を覆ふ位に過ぎず袖は細窄にして廣き袴を着す尚は我僧侶の用ゆる腰法衣に酷似したる巾廣き者を腰に纒用す而して腹部は別に細長き木綿を以て之れを捲き着衣の色彩は大抵は白衣なれども稀には上衣を紅にし上衣を緑紺にするものあり幼童も亦鬂を添へて髮を裝はし編を背後に垂れ荷物物品等を運搬するに當りて女子は必ず之を頭上に戴く男子は負架と稱する機器に載す戸外に於ける農耕其他の作業は概ね男子の業なりと雖も機織洗濯裁縫は女子の専務に屬す足袋は粗製なる綿布を以て之を造り草鞋は我邦の草鞋に稍似を加へたる如きものにて莚若くは麻にて製し其製法案外に巧緻なり

第五 貴族、常民、奴婢の情態

韓國の社會は貴族常民奴婢の三大階級ありて貴族は名門の後裔にして朝代々高官者を出し野に於ては長者と稱し[illegible]特權を有す今本道中の貴族に於て正三品以上の者を地方によりて區別せば

| 地名 | 姓 | 家族數 |
| --- | --- | --- |
| 青松 | 沈氏 | 九 |
| 慶州 | 李氏 | 三 |
| 延安 | 李氏 | 六 |
| 安東 | 金氏 | 卅六 |
| 慶州 | 金氏 | 十一 |
| 延安 | 金氏 | 八 |
| 密陽 | 朴氏 | 九 |
| 高麗 | 朴氏 | 四 |
| 昌原 | 兪氏 | 一 |
| 同上 | 梁氏 | 一 |
| 安東 | 權氏 | 三 |
| 昌寧 | 成氏 | 三 |
| 同上 | 曹氏 | 二 |
| 東萊 | 鄭氏 | 十三 |
| 宜寧 | 南氏 | 五 |
| 晋州 | 蔣氏 | 二 |

なる十六所十二氏百二十家族ありと聞く去れば近頃半島の政治家として著名なる金宏集、金は前記慶州の金氏にして金炳國、金炳學、金至均、金弘集、金炳始等は安東の金氏なり其他沈、[illegible]沈相薰は青松の沈氏にして皆な本道の出身者たるを知るべし

而して貴族の享有する特權とは登第して高官に任命せらると處刑せらるゝに當り家僕をして代て受けしむると賦役を免除せらるゝ位に過ぎずと雖も其權勢を利用すると甚だ度に過ぐるを見る

賤民とは農工商に従事する者即ち生産者なれども彼等は國家に對して唯々義務のみを負擔し毫も自得の權利なるものなし今左に貴族に對する常民狀態を述ぶれば

一、貴族の前には最敬の言語と禮儀とを以て俯伏せざるべからず

一、貴族の命令には非理と雖ども服從せざるべからず

一、貴族の前よりは喫烟乘馬するを得ず

## 朝鮮稗史 林慶業の傳(六)

涙嶼生譯

賊將可達令しも慶業の言を聞いて大に怒り汝軍已に數回の敗を爲しながら尚ほ懲りず更に援兵を求め來り再び我に向はんとするも弱敵突き敵とするに足るものならん王命とは云いながら重ねて無慘の敗亡を見んより寧ろ潔よく降伏して身の安全を計るに如かずと罵りければ慶業之れを聞て怒り心頭に發し猛然劍を廻はして可達の軍を驅突し全軍亦た之れに隨つて一齊に切りまくる其勢恰かも猛虎の群羊を驅り隼鳥の雀を追ふが如く忽にして死屍の山を築き流血杵を漂はすの狀を呈するに至りければ可達益々敵はずして這々の體にて敗走す慶業茲に於て充分の捷を得ければ天子賜ふ所の元帥旗を翻し金鼓を鳴らして軍容を整め補衛の軍爲糧餉を以て悉く三軍に饗つて其戰功ともして升輿へ倶に時に凱文を發して捷報朝廷に奏し全軍途に歸途に就く時に戊辰年八月なり

創王は此捷の牌文を見て親ら大宴を排設し三軍に犒賞し且つ曰く皇國天朝の恩惠と將軍が勇敢の功とによつて一擧賊敵を討平し我等をして再び塗炭を嘗めざらしむるに至りたるは其高恩謝する處を知らざるなりと多額の金銀寶財を出して之れに贈らんとしたりければ林元帥之れを辭し今回の戰功は一に軍士一同の勤勞に出るものにして決して我一人の私すべきものにあらずとて悉く之れを全軍の將士に分與し又た一毫の自ら收納むる所なし

斯くて討賊の業も總て告げければ林元帥は軍を回して本國に向はんとし朝王盛宴を張り[illegible]すでに之れに三十里外に送出す此時に當り元帥は使を以て戰勝を天朝に報ず天子之れを聞いて大に嘉賞せられ全軍を率ゐて直ちに皇城に入ることを許され長安百萬の士女悉く林慶業を歡迎せぬはなし元帥長安に入るや直ちに天子に謁し戰況の詳細を陳奏す天子親ら告げて曰く卿は宮に鄕を萬里の異鄕に遣はし難き征戰の苦勞を嘗めしめし今や其功を奏して天朝の威嚴を遠く沙漠の外に輝かすを得たり朕深く卿の偉功を謝賞すとて即時親ら盃を給はりければ慶業叩頭四拜して曰く臣が北狄を懲らし大命を全ふし得たるは一に陛下高徳の致す處決して微臣の力にあらずと天子之れを聞いて益々其謙徳に感ぜられたり

去る程に朝鮮王使李舜臣慶業の漸くにして凱旋し來りしを聞き直ちに闕し直ちに慶業の手を執りて曰く將軍万里の異域に出征して以來既に三年の久しきを經此間夙夜憂慮身を置く處なかりしが幸にして今日功勳を樹て無事歸國せらるゝに逢ふ何ぞ我が胸中の欣然たるや此日黃子命も又た來り慶業の勤功を讃して曰く昔は楚の覇王は抜山の勇を以て予世に獨行したるも今は將軍の功勳之れに勝ること數倍なるものありと此夜三人相共に宴に接す

林慶業は李判書と共に王命を奉じ明廷より使ひして既に六年の久しきを經過したるを以て本國に歸還せん事を乞ひたるに王は之れを許され天子切りに之れを惜まれ且つ謂して曰く將軍の功德は朕の永く忘るゝ能はざる所なりと慶業感泣拜辭して出て黃子命に面す子命も亦た別れを惜みつゝ遠く郊外まで送る一行は途を急ぎ鴨綠江を渡り白馬山を越へ海州を經て漸くにして南大門に入る滿城の士民之れを迎へて織るが如し時に己巳年三月なりける

今昔の感

## 對馬嶋露艦暴狀事件(六)

大東彈吾氏談、社員筆記

此夜例によりて評議を開いた今迄無念の齒がみをなし居た壯士八人々は最早勘忍袋の緒を切て如何な說論も耳には入れぬ露艦襲擊の事は今夜を過さず初められんとする形勢に立到つた

此時弓術指南番に番馬猪之助と云ふ中老の先生があつた國事に非常に熱心にして身を君に捧げんと秋を覺悟し一族門弟の人々を私邸に集め今生訣別の酒宴を開いた酒三行何れも悲憤の意を決して襲擊の手筈を定め宴終て後結束し仁伊藩老の陣所へ集つた其時番馬氏は出立は重籐の弓に山鳥の尾の矢を背負ひ紫銅作りの小刀を挾み猩々緋の陣羽織に鎧り魔衣と云ふ戰國時代のそれである相從ふ面々皆同じき出立中に山崎直右エ門といふは年少氣鋭濶達豪放の人であつて勇氣凜然満面に喜色を湛へて今夜の襲擊の急先鋒たらんとしておつた此一行凡十九人藩老の陣所を忍び出で、遙かに圖主の方を拜し今生の暇を告げ露艦を指して進發したのである途中まで來ると此事漏れ告ぐるとなく仁伊藩老の耳に入つたすると藩老は腰を抜さん計りに大驚し尾崎信太郎といふ若年寄を走らして汗馬に鞭て追付泪涙を揮ふて之を止めさした此尾崎といふ人は温厚篤實の君子で一藩乃重きを爲して居るが故に流石に此九人の說論には應せざる譯には行かぬ一行十九人切角張つめし勇氣を挫けて只相對して泣たとの事である中にも山崎氏は無念がつて地を打て泣叫び應じなかつたとて今も猶蹟柄に上で居る斯る騷々の間に於て既に明なんと[illegible]自分は年少で未席にあつたが今は國へ歸て進み出で自分は藩へ艦長に面して平君を[illegible]されてある故及自分に艦長を刺り殺し國の患を除き一藩の志人に安堵せしめんと申出た衆は默していはぬ藩老涙を浮べて默々せられた自分は其前を退て一備を認め若しも國事に死する事あらば弟を以て家名を存せられたしと哀れなる書置を示して家寶代々の出國の一刀を腰に差し陣所を出た明方の闇であつたらういやに凄惨な氣がして無骨感慨に低徊した例の端船にて露艦に赴けば艦長未だ陸上にありとの事艦に上れば東方微かに白うなつて曉の寒さは骨を刺す計に堪へた艦長に面會を申入れた應暫く待てとの事である此夜は全く明た自分は此期に及んで幾度か生死の命を躊躇したのである氣後れは仕まいか打損ぬるではあるまいか種々に思ひ浮べて心緒錯亂胸は波の如く鼓動してゐる、やがて艦長は士官と共に室外に出て自分を指し招いた自分は今更の如く氣後がして足も顫て居るかのやう艦長は斯くと知らねば微笑を浮べて何用かと尋ねた自分は怪しう口乾り唇を動かしたまゝ何を云ふたか自分にも分らぬ艦長は可笑き男と思ふたか其傍にゐた士官と何事か談笑しつゝ彼方に歩を移した今や機會は到來した千載一遇の機會絕てある空しき一生の機會に到着した自分は忠國の一刀に手を掛けたがフト思ひ浮べしは大刀は仕損ずる患あり小刀を以て刺し與れんと思ひ直した是れ吾一生の不覺であつた不名譽であつた一藩の爲には神明の擬らせ給ひし者か此瞬間に自分は死の境を去つて生を欲するの情が生あた自分は果して此小腕で仕遂るであらふかあの大兵の男を若志仕損すれば物笑いである毛を吹て疵を求るのであるさらば止まんかなと思ひ止まりしは何たる腑甲斐ない事であつたふ自分は今思ひ起してさへ愧かしい際に居溜られぬ心地がする」



韓國雜事

●韓國大官の更迭 法部大臣權重顯氏は軍部大臣に議政府贊政朴齊純氏は法部大臣に、警務使申泰休氏は議政府贊政に、陸軍副將閔泳煥氏は彰勳院總裁に任せられ何れも勅任官一等に叙せられたり

●損害金の支拂 韓國政府は林公使より韓國政府に要求せる甲午以來我邦人の韓國に於て損害を蒙りたる賠償金として十八万七千五百元を韓國政府より支拂ふことゝなり不日我公使に之を交附する筈なりと云ふ

●議政府會議 去三十日午後二時議政府會議を開き借款契約の議定及丸山、幣原兩顧問諸氏の雇聘に關して協議する所ありたり

●各國公使の謁見 韓皇陛下には去一月三十日午後三時半より四時頃迄日本公使、米國公使を接見し卅一日は同時刻より[illegible]國公使及清國公使を接見し今一日は英國公使と獨逸公使二日は白耳義公使、以太利領事を接見する筈なり

●注意すべき露國砲艦 露國砲艦マンヂュールン號は去月三十日午前六時上海より仁川へ入港卅一日午前十時上海に向ひ出航せり其去來に就ては頗る注意を要する點ありと云ふ

●韓貨は昂騰 仁川港に於ける白銅貨の授受自然嚴格となり勢ひ私鑄は市場に排斥せらるゝの傾向を呈したれば官鑄の價漸く恢復の兆候を示めし仁川にては京城商の影響を受けて二百六圓五拾錢より六圓まで昇進し近來の高値を示せりと

俳句

春の夜を醉ふて枕す鼓かな　枯葉
炊く枝の皆生木にて餘寒哉　仝
春風や總進軍の日となりぬ　其昌
沮喪せる軍氣やいやに春寒し　仝
花の山花見衣裝の双兒哉　美驅
三年の柳春めく姿かな　仝
我國の梅の花見る捕虜の春　凡骨
蹴つて捨つ破れ草鞋や梅の道　仝
恐ろしき岩屋に近く野梅咲く　八重
聲高き遠くの歌や春の宵　仝

春の句を募る

小說

## 佛蘭西騎兵の花(十一)

英國 コーナンドイル作
日本 梅村隆士譯

幽鬱城の探險(つゞき)

二人は最早少しも躊躇する事はない、向の室から漏る女の呻聲の樣子では是丈け早く出て來たのでも最早駄目になつてゐると思はれる、廊下には尚二人の男が居たが世良田龍野二士官の拔劍して走り寄る見幕に恐れて何處にか逃げて了つた。

龍野は今巨犬に嚙み付かれたので頸から血が滴り落ちてゐる、而し彼は世良田よりも先頭に進んで行くので最初此城の主人なる惡黨男爵に面會した室に這入つてからは龍野の肩越しに漸く室内の有樣を見る事が出來るのであつた。

男爵は怒つた獅子の如く其鬣髯を逆立て、室の眞中に立つてゐる、而し男爵は前にも云つた通り隨分大男で肩幅の潤ひと非常である、今彼は怒りに堪へざる顏色にて拔き持つたる劍を構へてゐる處は彼れの罪惡は惡むべきであるけれども其態度は劍客として戰士として決して恥かしくないと世良田は思つた。

美人は男爵の後の椅子に小さくなつてゐる其兩手を縛つてある綱と卓の脚にある大きな鞭とを見ると二人が室から飛出して來たのが丁度殘酷な處分を受けるのを救ふに足る時であつた事が解る。

男爵は猶の如く吼へて龍野の突いてかゝつた、一言毎に何かの惡々しい言葉で罵りながら。

此室には前に云つた通り、充分劍を揮ふ丈けの餘地がない、それに龍野は眞先きに立つて戰つてゐるから其身體と卓と壁との間に世良田の入込む可き隙が無いからどうしても龍野を助ける譯に行かぬのである。

龍野は青年に似合はず能く劍を使ふので野猫の如く猛く且つ烈しく戰つたが此狹い通り路では其强力が少なからぬ便利を男爵の方に與ゆるので龍野は較もすると敗色になるのであつた、のみならず敵は實に巧妙なる劍客である。

其突け實に電光の如く迅ので二度程龍野の肩先きを突いたから龍野は蹌踉ながら仰向に倒れた、すると彼奴は劍を取り直して留めを刺さうどするから世良田中尉は其間に飛込んだ。

『待ちなさい、足下はまだ世良田一雄と立合はなければなりません』

男爵は二三歩後ろ退いて模様紙で張つた壁に倒れかゝり一息ついて世良田を見詰めたまゝ俄かに答ふる所を知らぬものゝ様であつた。

『呼吸を休めなさい、僕は待つておるですから』

世良田は沈着なものである。

『君は私と何も爭ふ事はないぢやないか』

男爵は苦しげに斯う云つた。

世良田『爾うはゆかぬです、私を糧食庫の中に閉ぢ込めたのは誰です、それは好いとして外の事は何にも無いにしても其婦人の手にある綱丈でも私の言分は立つのです』

男爵『それぢや勝手にせい』

と怒鳴りながら狂人の如く飛上つて世良田に向つて來た、此一瞬間に世良田の眼に入つたのは火の如く輝く彼の眼光と赤く光る劍の切先が右に左に頸に胸に透間もなく突いて來るのであつた。

世良田は戰ひながら心の中に思つた、あんな上手の劍客が革命時代に巴里の市中にゐたであつたらうかと。

世良田の如き戰士が一生の内に出會つた敵手が六人位しか此程の精妙なのは無つたと云ふのであるから男爵たるものも當代稀なる劍客であつたは相違ない、而し男爵は明らかに世良田が自分より一層の上手である事を覺つたらしい、男爵は最早己れの運命を世良田の眼光で悟つたものらしい、そして世良田もまた敵の顏色で以て其心中を看破するとが難からぬのであつた。

男爵は最後まで能く戰つた、其最後の突きを受けて息の根の止る時になるまで口に罵りの言葉を絕さず、死んで了つても口の端から齒の先まで血沙が迸しるのであつた。

而し兎も角惡黨男爵は義俠なる世良田一雄の手にかゝつて斃れた、さて外に倒れたる龍野少尉の運命は如何、殘された鐵城の城の美人はどうなるであらうか。

# 朝鮮日報

通信

## 門司特報（二月一日發）

特派員 安洋生

◎沈旦保戰の前程

二十四日敵軍の前線を離れ本日歸來せる某將校の談によれば奥軍及左翼前面の敵の主力は目下周沈旦保に集中せる模様なるが過回の沈旦堡戰は去る十八日以來既に薬に共打切の開始したるもの乎にして十八日午前沈旦堡の敵に騎兵騎六名出現したれば我兵之を狙撃し僅かに十發にして敵に之を退せり又我敵陣地の中間には高梁殺の散亂しあるを以て此彼編せる高梁の上を歩するには歩を潜むる能はず之を以て敵は近來一計を案出し犬及び豚を先驅として其後に徴行し以て巧に斥候を爲す事あり二十日以來敵は毎日恰も我を郷擒するかの如く輕氣球を飛揚せしむるを以て我は榴散彈を發射したれば此砲に避易して昨今之を中止するに至れり今回の逆襲戰に於て敵が我背後に廻り往路は柳條口と臣旦堡の中間より滂子沿の奪面に出て以て我を脅かさんと計りしものにして目下之等の敵兵は金山屯方面に潰走せるものゝ如しと

◎宮本侍從武官の慰問

宮本侍從武官は昨夜到着列車にて若關川卯餞旅館に投宿今朝門司碇泊所司令部に至り出征の途に在る第十四旅團長齋藤大佐に面接し且つ後備第五十五聯隊の乘船の模様を視察し午後馬關に引返し全三時三十分發にて東上せられたり

## 京城通信

本社特派員（壹月三十日發）

賊魁ノ牢囚　延平部居住孟一浩なる者は嘗て會民を煽動し財を奪ひたりとの故を以て内部より該部に電訓し孟を捉捕上送すべきとの事なりしか京畿觀察使の報告によれば孟一浩自ら府庭に來りて曰く難に遭ひて方今病あり工杜門外出せざる數月前に會員を募集し會員を毆打し民財を奪ふが如き謀をなしたる事なしと曰を極て辯明し暴舉ありたる事なきに依り仮に姑く牢囚して取調べん

●警衛隊は廢止せられて警衛院の付屬となる

●郡守の逃匿　○○郡守金奎濟は人を監殺し逃去し行衛不明也

●英語教師の退職　英語教師「夫岩」は九年一月より起算して三個年に續聘合同契約をなせり

●夫妻自殺　阿峴居住電報主事鄭燦璧（二十三年）は先日免官となりしが負債返済すべからざるを恨で陰二十九日夫妻共に服藥自殺せり

●長谷川大將の訓令　長谷川大將は咸興兵站部に訓令して曰く軍用地區域内は賣買典貸其の他所有權の移轉すべき行爲は一切之を停止すと日本公使は此旨を〇て外部に移照せり

●韓皇親典（一月三十一日發）　來る二月十七日安洞別宮に於て皇后冊立の大禮典を擧げらるゝ由

●新任清國公使　曾廣銓は最早着任せる如く傳へられしも實は未だ着京せず當一月一日前には來着出來ざるべしと云ふ

●民會決議　廿九日民會にて避病院擴張必要を認め三十八年度臨時費四千五百圓（擴張費）及歳出歳入差引不足額千五百圓合計六千圓支出する事を決議し倭南山に貯水所を設け十万圓の範圍にて設備する事を決議せり

●糧秣徴發　咸北吉州にて露兵は糧秣を徴發して其代金を支拂はず依りて郡民は不平を稱へつゝある由

●官制改革會議（三十一日發）　本日午前十時より官制改革に關し會議を開く由にて本日殆んど徹夜して總ての案件を議行し終る筈なり其内容は未だ聞くを得ざれども中樞院を廢止し新に法制局及文官登用規定を側定せらるゝの件も其一部分なりとの說あり

●李容翊の近狀　李容翊には近頃切に勢力挽回し努め長谷川大將及落合少將を擔ぎ其談話を針小棒大にして陛下に奏上して其新任を得んとしつゝありとの事也

●李根澤窮狀　警衛院を整理し皇宮警察を布き禁門云々會令等を實行せんとして諸大官の妨ぐる所となり李根澤此頃窮し居れる由

## 東京電報

●黑溝台の占領（三日午後二時本社着）

公報に據れば我軍ハ連續三晝夜ニ渉りて猛烈に前面の敵を攻擊したるも容易に目的を達せと夜ニ至り一大夜襲を行ひしか之ニ參加したる諸隊ハ悉く全滅を期し大損害を顧みに突擊を試みたる結果頑固なる敵を終ニ之ニ耐へずして退却せり我軍ハ進んで黑溝臺の線を占領したり

●敵の襲來公報（二月三日午後四時四十分發　六時四十五分着）

二日附公報によれば右翼方面ニ小部隊ノ敵襲來せるも擊退せり中央方面の敵は沙河堡楊屯を砲擊し昨夜來斥候衝突絶へも左翼の敵は今朝來沈旦保を激烈に砲擊し約壹師團の敵チウカクワホウに侵入せしも擊退せり

●露内務大臣の新任（三日午後五時發全七時十五分着）

倫敦發の報によれば露國内務大臣にパリクニー新任せられたり

●西比利亞に蔓延を（全上）

又た同報によればストライキは西比利亞に蔓延しつゝあり

●艦隊のストライキ（全上）

露國第三艦隊水兵ストライキを起し出發すること能はず

●黑溝臺の大激戰（本日午前八時三十着　昨日號外再錄）

我軍死傷七千敵壹萬を過ぐ

大山總督公報によれば黑溝臺附近の會戰に於て我死傷約七千に達し敵の損害亦多大にして捕虜の言に歩兵第四聯隊は殆んと全滅しその損害壹万を下らさるべしと

## 雜錄

●韓國經營の財源

韓國全体の普通行政權も軍事警察權と共に漸次我掌中に收め且つ國防上の事は日韓議定書に由り一切日本政府にて之れを引受くる筈なれば今後對韓政策の進行に伴ふてその費用も頗る增大すべきをもってその財源に付過般來韓國政府と我政府との間に内々交渉を重ねつゝあるが結局韓國の煙草及び鹽の專賣權を舉げて我政府に讓受け收入をもって右の經費に宛つることに略ぼ交渉成立せん樣子なりと尚又韓國の地租改正は遠からず決行する筈なれども是は専ら韓國政府の經費に宛つる積なりと

●京義鐵道の線路

目下急速工事中なる京義鐵道は其延長二百九十六哩にして京釜鐵道本線より長きこと二十二哩なる元來同鐵道は昨年日露開戰の當初我軍事上の必要を認め特に韓國政府の同意を得て速成せしむる方針を取り其工事に要する經費約一千六百万圓を臨時軍事費中より支出し目下工事を督勵したる結果今や既に三分の二以上の工程を竣り本年中を以て京城、義州間全通の豫定なるが其驛名及距離は左の如し

京城高陽間（拾一哩）▲高陽坡州間（拾哩）▲坡州長湍間（拾二哩）▲長湍開城間（拾七哩）▲開城金川間（八哩）▲金川平山間（二拾三哩）▲平山瑞興間（二拾一哩）▲瑞興鳳山黃州間（拾五哩）▲黃州中和間（拾二哩）▲中和平壤間（拾哩）▲平壤順安間（拾六哩）▲順安肅川間（拾八哩）▲肅川安州間（拾六哩）▲安州嘉山間（拾三哩）▲嘉山定州間（拾八哩）▲定州宣川間（拾九哩）▲宣川義州間（四拾五哩）

●旅順鐵道の現況

去十五日より開通せし青泥窪、旅順間の鐵道は南山以北の際敵兵之を破壞するの遑なく其儘我軍の戰利に歸し昨年八月上旬より青泥窪、長嶺子間の運轉を開始せしも其以南は依然支那馬車をもって運送するの不便ありしが今回旅順の開城と共に我鐵道部に於て直に軌道の改築に着手し既に開通を見るに及び青泥窪旅順間は僅に三時間をもって到着するを得べしと云ふ

●日清銀行成立せず

今期議會に於て政府は日清銀行法案提出の筈なるやに噂されしも今回提出せられたる日本興業銀行法改正案によれば海外に於ける事業經營に對する放資の件を規定しあるをもって右改正案にして通過せば今後興業銀行を以て對清韓經營の金融機關たらしむべく日清銀行は最早設置せざるべし

●露軍馬賊を招募す

奉天北境の露兵は常に馬賊の爲めに苦められ車器兵糧を劫奪せらるゝこと屢次なるを憂ひ頃日掲示して馬賊を招募し之を籠絡せんと試みたるも曾て一人の應募者なかりしと

●第五十八銀行本店總會

去一月二拾九日同行大阪本店にては豫て整理の結果本期決算に於て從來の缺損を塡補に當したる事とて粥井議長は其營業事蹟を詳報してさの利益金分配案を可決し續て時局進轉の結果に伴ひ韓國各支店の營業は益、有望の域にあり從つて此際仁川、京城、釜山各支店を新築し業務を擴張せんとて新築案及び定款を改正して韓國鎭南浦及び平壤に支店設置の件を可決し監査役の滿期改選は各再任せり

金一萬九千九百八拾圓拾二錢　當季利益金

内

金五千圓　積立金

金一萬二千五百圓（年五朱）　配當金

金一千九百九拾八圓　役員賞與金

金四百八拾二圓拾二錢　後季繰込金

因に粥井專務は鎭南浦及び平壤支店設置に關する要務にて本月早々渡韓する由

## 釜山雜事

●民役所樓上の協議會

蒸汽喞筒二臺の買入

釜山港消防設備の完全を欲するは差當り須要の急務たる事は何人も認むる處なるべし茲に於て石原民長平田助役の連名を以て居留民重なる有志家に書を飛ばし昨三日民役所樓上に於て協議會を開けり當日出席者は十二名石原民長會長席に就き平田助役主として說明の任に當り左の豫算案を是認したり

市原喞筒製造所喞筒第二號購入豫算

一金五千百六十圓　十二馬力喞筒及附屬品其他入費

内譯

一金三千五百圓　喞筒二臺代一代に付金千七百五十圓

一金三百九十圓　運賃荷造り持込荷物責任料

一金三十圓　ハッグ壹個代容積十二石入

一金五十圓　水管馬車二輛他一個に付金二十五圓

一金二百十圓　水管、一本六十尺十四本代一本に付金十五圓

一金九百八十圓　ゴム製管（十四本）一本十尺十四本代一本に付金七拾圓也

其購入方法に就ては若干の委員を設け募集する事に決し午後四時頃散會したり猶は委員の人名は明日の紙上を以て報導すべし

●棧橋會社用材料の買入

當釜山棧橋會社用鋼鐵柱材料は昨日大阪府に於て指命したる由當地着は四月下旬若くは五月上旬なるべしといふ

●棧橋竣工の期

棧橋會社に於て架橋すべき起點橋臺は埋立地の石垣を堅固ならしむる者の由にて高さ三尺横三十三の間に築堤し三月中には竣工すべしといへり

●特志者の金員贈與

客年中當地旱天の爲め水道の水涸れ井泉渇れたる折居留民の困難を救はんとして絶影島より回水に努め多大の効を致したる八頭司直吉氏に對し今回居留民長より左の感謝狀と金員四百圓とを贈與せられたり

客年來は特に降雨少く水源地枯渇し給水に不足を來せし際船舶等多數なるに拘らず絶影島より回水に努め需用者の便を得せしめたるは深く謝する處に候茲に報酬として金四百圓を贈る

明治卅八年一月卅一日

釜山居留民長石原半右衛門

八頭司直吉殿

●倉庫會社總會

來る十日午後七時より小倉席に於て總會を開き昨年下半期に於ける決算報告其他に付き種々協議すべしとの事なるが配當額は一割に至らざるべしと

●倉庫會社重役會議

當港倉庫會社にては去る三十一日重役會議を開き來る十日總會に於て決議すべき事項に就て種々協議されたり

●倉庫會社記事

現在の倉庫内の各種雜穀は米一万二千三百七十二俵。小麥三千九百四十一俵。大豆千四百八十八俵。炭木炭四千八十五俵なりと△下半期と戰爭の影響を蒙り倉庫を利用する日數なく輸出輸入されたるを以て不良の成績を呈したりと

●大豆は如何

本年の大豆の成蹟は一般良好にして目下の相場も頗る騰き方なるが本年の國數の豫想は今日の處判明せざされど本月下旬に至らば多少豫想出來得べしとの說一致せるが如し

●パイキング號

パイキング號三十三名の乘客を搭載して昨日入港一等乘客は坂田喜次郎、仲米治の兩氏なり

## 訪問記事

松村書記生を訪ふ

●釜山痘苗所設立に就て

▲韓國痘苗所設立に就ては些なくも左の三個の必要な理由がある

▲一つは日韓の交通頻繁に基因する事であるが交通頻繁は喜ぶべきことの一つの現象であるに反し傳染病の輸入は厭ふべき事の第一で傳染病の中天然痘は韓人の專賣特許とも言ふべき者であるから是あるがため我國に傳播して尠ながらぬ迷惑を蒙り居るは顯著なる事實であろう故に韓國に痘苗所を設立して韓人に種痘せしむるの要は多く論ずる迄もあるまい

▲第二は我國の現況である東京に設立してある內務省直轄痘苗製造所は原料が高價なる故年々に不足を告げて國庫より二万圓內外の補助を受けてある故に此不足なからしむるため他に適當なる地を撰定するの要あるは國家經濟の上當然の事で韓國は最も適當の地であると矚目されてある

▲第三は戰爭の爲め征戰に赴くの人は悉く種痘せしめられ需用は俄然として增加してある是は一時の現象とするも韓國民の種痘を一般に普及せしめんとするには隨分多數の痘苗を要するであらふ是を現に損失しつゝある我內國に仰かんとするは困難の事であるから韓國に設立するは目下の急務と言はねばならない

▲ソコで設立の議が起つて來て今回內務省より相原田中の二技師が特派されたのである扨て渡韓の上は原料の購買と不用品の拂下の便不便と適不適とを研究するの必要があるが假りに二百頭の牛を要するとして廉價に買入るゝ事が出來るとするも痘苗採取後拂下の際に買人か相當の代價を拂ふや否やである採取後に牛は一時疲勞するも一定の時期を經ると健全になるは經驗上の實說なれど未知未聞の當地商人には急速に會得せしむるは六ヶ數是れ一の困難である

▲最一つは場所の撰定であるが相原田中の兩技師は京城仁川方面に出張して取調中であるが想ふに釜山の如く集散の便利つなから適するの地は他にあるまいと信ずる然らば韓國の痘苗製造所は早晩設立せらるゝとせば釜山なるべく而して之を早設せしむると他日に讓らしむるとは一に當地の商人が如上の事實を會得するや如何に歸するであるだ▲痘苗製造所問題は以上の如く目下研究中に屬するので設立せらるべしと△未だ釜山に確定した譯ではない

## 東京通信（廿九日）

在京社友發

▲我公債の暴騰　我軍連戰連勝と露都暴動騷起との影響に依り先日來躍昔の趨勢なりし倫敦の我公債相場は去る廿六日更に暴騰を告げ特に六分利付は額面を拔きたる有様にて前途益々好況なりといふ又露國公債は倫敦に於て八分の七方騰貴し八十八磅四分一となり巴里に於ては八十五法七十五參に保ち合へりといふ

▲密輸入船拿捕頻々　旅順陥落を告げし以來浦潮軍港に向け戰時禁制品を密輸し密入せんとして北海に於て拿捕せらるゝ汽船續々として其筋より發表せらる

▲兩提督の出發　去る二十三日には上村第二艦隊司令長官が其艦隊を從へ出發したりしが其後東郷大將には風邪の微恙ありし爲め臥床中の處頃日全く快癒に赴き來る二月三四日頃出發赴任せらるべしといふ

▲第四回國庫債券　第四回國庫債券の募集は目下評議中の如くなるが多分來る三月上旬公募のとなるべし

▲韓國皇室の同情　開戰以來同皇室は我國に熱切なる同情を寄せつゝありしか今回同國皇后及び各親王妃殿下等は我が愛國婦人會の趣旨を賛讃あらせられ各女官等と充分に助力を致すべければ何時にても希望の事項を通知すべき様稻垣公使に御下命ありたりといふ

▲市況　客年より祝勝準備を整ひ遡足して待ちに待たる旅順陥落の快報、時も時松の內の未だ屠蘇の香消えざるうちに來りしかば滿都の市民舉て狂喜雀躍し沈靜なりし人氣俄に引立ち提灯行列旗行列なぞにて終日終夜歡呼烟火は轟天地に響きたりしが昨今は稍々當に復し市民は殆んど祝勝勞れに疲れ居る有様なり

▲第三回閉塞戰死勇士の葬儀　去る廿五日水交社出棺青山墓地に葬られしが沿道に群集の人は山を築き悲慨を載せたる幾多の砲車の先頭に朔風怒濤を冒して共に決死閉塞事業に加はり辛うじて旅順沖に巖屑を遁れて敵の救護に依り過般旅順開城と共に歸還せる萬田兵曹が哀曲の樂に歩を刻み殊に繃帶にて隻手を包みたる樣ろうろ當時の苦戰辛慘なりしを忍ばれ密よ暗涙を催し袂をしぼれるも多かりし

▲天候　元旦以來天氣快晴に續いて殆んど雨雪を見ず昨年に比し旅程の暖氣なりされば朝霞遠く大內山の綠ならぬ松の綠を包み紺碧を溶せるお濠の水の寂々たる中に群れ遊ぶ水鳥の羽音も長閑に聞えて何となう世は春めき來り日比谷公園の梅樹も此頃に至り漸く微紅を呈し黄鳥を招き徐ろに破蕾芳香を發して吟杖を曳かしむるも旬日の後にあるべし

▲新春文壇界　吾人が豫期して待ちしが如くならざりしは遺憾とするも文藝倶樂部の柳浪の座敷牢、眉山の綾小袖、新小說の鏡花の紫紫、太陽の柳浪の五反歩等は確に新春陸離たる光彩を放てり、中にも柳浪の座敷牢は錦花の中の白眉なるべし（完）

●韓錢相場（二月三日）

[illegible]

[illegible]

列車發着時刻表 [illegible]

## 廣告

一金壹圓五拾錢 帝國義勇艦隊義金 木村源幾 但入江町十三番地
一金拾五圓 帝國義勇艦隊義金 奥田友太郎 但二月一日幸町一丁目八番地
一金五圓 帝國義勇艦隊義金 山川 但二月二日辨天町三丁目拾二番地

右之通寄附候也
明治卅八年二月三日
日本居留民役所

## 社告

本紙發刊尚淺く配達方不慣にて種々不都合の廉も可有之候間若し配達漏れの節は御向より御申出被下度候右御願申上候左すれば特に別配達を以て御送附可致候也

本紙定價の儀は一ヶ月金參拾錢に有之遠隔の地へは別に郵稅金十三錢を頂戴可仕候

明治卅七年一月十八日
朝鮮日報社

## 小説 露探狩り (九) 黒潮

野良犬を吹きまくりゆく吹雪哉

雪の日の温泉宿の二階寂す事も無くて藍絹を潰したる、今しも客の此處を起つらしく主人下女のわたくしが表閣に立出で見送りたるにしか後は孰れの客室も人靜かにて陸なる京城の二階に密かなる囲碁の音すると共に客の勝ち元に折々響しる車非の音のみぞすなる。

お梅は今朝程思はずもなつかしき人に逢ひてより其言ひ聞かされし言葉のはし〳〵深く身に沁むものから、さてはあうしてかうして我と今の境遇と思ひ合せて、さて是から先は如何なる事であらうと思ふ心配の小さき胸に包み得られざるが、障子を開けて縁側に立出て折から風止みて雪いや滋き庭の面を只茫然と見て居る内、後の方より奥様と呼びて頼〳〵ものあり。

『をや、惘然したよ』

『あの、昨夜のお客があれを貴嬢様に上げて戴けと仰しやつて只今お起ちになりました』

『さう、まう有り難う。一寸れ待ち、なに、少し許りですよ、いゝからよ取とつてれ呉れよ』

下女の渡したるは其人の寫眞なりき、さて此の今其人を立出しは其人なりけるよ、一塵を月に暗いて闇に隠るゝ如き其人、さ、さらば又何時會ふ折のあるべき、名殘惜しかりける事よ、さるにても書き殘し玉へる事文思ふに大事の用なるべしと人無き室にも心を配りて讀み行く文句、

……自分事長崎より歸りたらば例の的の身の上には屹度一大事が持ち上るのであるから、多分一兩日中に此處に逍つて來る、それからお前を連れて何處にか身を隠すに相違ない、其の時お前が的さ全處に居て異れるのが、自分の爲には大變都合の好いのだ、今朝長崎から電報が來たので自分の仕事は大變遣り好くなつた、それで今から急行して歸る、頼んだ事は皆々忘れてはなりませぬぞ、手紙を出すのも電信もみな書いて遣つた處宛、而して決して使の者に出させてはならぬ、自分で行つて出さねば、亦逢ふのはお前達の行つた先さ、其途中では自分は逢はぬ様にする只話した男がお前の身の影になつて尾て行くけれども衣前にはそれがどの男であるかは分らない。

……お前には色々と苦勞をなませて

なほ細々と認めしなつかしき人の手蹟、終りには實に左の如き優しの文句ありき。

また、上の注文が餘程重いけれど、あれも自分の様な薄倖の男と縁になつたゆゑであると諦めて下さい、只自身はお前の身が可憐であるとは思ふけれど男一匹の意地今日の場合何卒自分を助ける事と思つて大事に大事をとつてやつて呉れ、口にこそ云はないが自分は心の中でれ禮を云つてゐる。

思へば自分程薄倖の者はあるまい、力と頼む其人も世に秀でたる才能と氣象を持ちながら其爲に返つて身を過り玉ぬて世に會はず人に容られざる爲め殊も彼の様な大事件を思ひ立ち玉ふ、そを成功し玉ふたりとて自分は側よゐて行末を樂しむと云ふ譯に行かぬ様子、情けなきは我身の上なるかな、さるにてもわれ今死ぬ程の事ありとて彼の君の爲とならば火の中にも水の底にも入らんと誓ひしなれば、行末の事など思ひ煩ふ可きに非ず、われは梅の助なり、彼の君は岸健三なり、此なつかしき名と梅の助のお梅とが世にも愉快なる壯事を成し遂げたりと後の世に謠はるゝのみぞ、只今から望ひべき所なれ。

『妾も梅の助だもの』

お梅は思へず斯く口の内にて呟きしが、さて何をするでもなく只遠くより來る何かの物音に耳を澄すものゝ如く、詰めたる煙管の手より落ちたるを拾はんともせず。

下女「奧様電報が參りました」

お梅「長崎からだらうね」「おや〳〵の孫が書いてあるんだね旦那からだらう」

## 露國奇談 四年の夢(一) 生田丁吉氏談 社員筆記

△山城丸乃一乘客

時は三十三年の十一月廿六日であつた、余は數年間日となく夜となく希望した露國行が出來るおとになつて汽船山城丸に乘つて故郷長崎を跡にし茫々たる海路の旅に就いたのである、乘合の乘客中には朝鮮人が五十名程英國人が四五名と吾々日本人が二十名許りで浦鹽斯德の航海を續けて六日目の廿七日午前九時に目的地たる浦鹽斯德港に着いたのである、

△醬油業に手を出れ

さて愈々浦鹽に這入つて早速馬車でキタイスクウォリワッウ、グルフなる筑波と云ふ親戚の家に到つて愈々露國に來たから方法の就くまで其世話を頼み度いと懇願した、最も前から手紙を出して置いたので何等の故障もなく此人の家に當分食客となるあとになつた、此家は雜貨を營む家で朝鮮人や日本人を相手とする商店で相應に繁昌して居つた、すれで自分は番頭兼小僧といふ体で朝から晩まで一生懸命に働いて此年も暮れた、然るに二月頃フト自分は醬油の製造をやる考を起した、それは何らいふ動機から起つたといふに當時醬油は日本から輸入さるゝあとになつて居つたので税關の手を經る爲め稅金がかゝる夫れや内地からモロミを取り寄せて製造したならば度利益になる許りでなく一般の爲めに安價で便利を計るあとが出來ると思ふたので早速懷中にした若干の資本で家屋を探しにかゝつた處が幸ひにボロカヤウウツザアに熊本縣人の伊藤といふ柔術の先生が道場を開いて居つた家が今空家になつて居るので早速此家を借りて住み込み支那人二名を雇ふて愈々製造に取り懸つた原料のモロミは筑後の柳川といふ處から一斗一圓五十錢で取り寄せたが一斗で八圓位いの純利を得販路も段々擴張して益々好望の位置に進んだ此の醬油業をやつて居る人で外にも二人あつて北野といふは自分より先で醬を寢せてやつて居た一人は太田といふ人で是れは自分より後に着手した矢張りモロミを取寄せてやつて居たが北野のモロミは若いので失敗に終つた、吾等の原料は三年位は經過して居つたとそれに見術を入れるのでドロくして至極好評を博し殊に支那人や朝鮮人は之れを好くので非常に評判がよかつたのである、然るに五月中旬になつて醬油は日本人の常食品であるから無税にすべきものであるとの交渉から遂に之れが實行されたからわたくし共等の事業は遂に失敗に歸したのである、

## 今日ハ舊曆正月

居留を呑む魚にしたし富士の山(曇日)

鷲か寒い春の山に青々として秋か崩れ出る草や木を眺めて先づお目出度うと健かなる兩親に繋をのべて憎ある妻や愛らしき子と屠蘇酌む時の心地や如何に、年を迎ふる嬉しき心は鄙も都も唐も我國も變らざるべし今日は舊の元旦にて韓家の戸口は定めて壽鮮の多からん、別て昨日今日は霽雨新よ晴れ四方の山々霞を罩めて一入景色はみぬれば釜山港内本邦人の家々にも流石に昔しを忍れて舊の元旦を祝ふる人もあるべし可笑きは藝者に濃き化粧して何處に喜びを迎へんとする平晴衣して練り行くも床しき心地す

さらば記者も祝うて今日一日をあそばん哉

遺り羽子や受はづしたる人の顔(霧覺)

## 雜報

●既成織物課税の怪聞 本紙が去月二十一日の紙上に記載せる既成織物課税類の認定に關する怪聞に就き昨今漸く議員間の論議高まり來り政友會にては交渉委員をもつて政府に質問警告を爲してとゞろなり居れるが其の結果次第議員總會の發議したる上議會の一問題と爲すべしと聞く

●慶尚道に於ける吾憲兵の駐在 慶尚道に於ける吾憲兵の駐在に附き某氏の談に依れば郡守を初め韓人一般は其勢望ゞ服し且つ信頼し如何なる葛藤紛擾等の出來する事あるも吾憲兵の撫御するなれば快刀亂麻を斷つが如く如何なる目的も即座に達せらるゝ形勢にして若し一旦引揚げとあるが如きあれば郡守の如きは非常の失望を爲して其行を送るが如き感を呈し居れり又日本商人の如きも一名の憲兵駐在する時は直ちに其地に移住枕を高ふして業務に就くが如き次第なりとて某氏は頗る憲兵駐在の成蹟を激賞し居たり

●朝鮮新報の擴張計畫 仁川にて發行せる同紙は其紙面を擴張して十六頁形のものを發行せん計畫を爲しその印刷器械及び之れに附屬する活字等は既に同社ゞ到着したりと云ふ

●井上藤二氏 朝鮮日日新聞社長 日歸朝の途次來港大池旅館ゞ投宿便船次第出發の筈なり

●山科副院長 山科京城公立副病院長は馬山浦境警部署の災難事件にて出張中の處一昨夜山陽丸にて歸釜せられたり

●市橋遞信屬 電信事務視察として出張中なりし遞信屬市橋力氏は釜山局區内の視察を了へ京城方面に向ひ出發

●鈴木通信屬 秋風嶺地方に電信事務視察として出張中なりし通信屬鈴木辰二郎氏は一昨日歸局

●石崎支店長 [illegible]支店長は馬山浦に新任移轉の爲め出張中なりしが一昨夜山陽丸にて歸釜せられたり

●岩森軍平氏 陸軍御用鐵道係員岩森軍平氏は昨日來港大池旅館に投宿せらる

●佐藤三郎氏 陸軍々用鐵道係員同氏は昨日來港大池旅館に投宿中

●山本盛治氏 大坂商船會社當支店員山本盛治氏は大邱地方に出張中の處昨日歸釜

●漆原の強盜被害 事件後報

▲酒井警部の負傷個所 馬山浦警察署の酒井警部が洛東江の上流漆原に於て火賊の爲めに負傷したる模様は再昨日の紙上に詳報せるが今同事件にて出張したる山科釜港公立副病院長の談に依れば今後一週間を經過せざれば快癒の見込を立つる能はず今其概要を擧ぐれば

▲負傷個所 頭部に十數ヶ所右拇指内側左手背三寸移開右耳頭三寸骨膜に達し而して頭部の重なる傷所は嚥頂左に二寸同右に二寸何れも骨膜に達し居れり

▲二十四時間を經過す 同地には醫士一人もなき爲め負傷後廿四時間を經過するの已むを得ざるに至れるあど等にて負傷個所中腐敗したるものあり爲めに治療上益々困難の症狀に陷り居り

▲訪問見舞者續々 訪問見舞者續々ありと

▲未だ捕縛に至らず 火賊捕縛のため同署より數名の巡査を出張せしめ目下嚴重に探偵中なるが未だ捕縛に至らずといふ

## 投書函

◎人身攻擊に渉れる勿れ ◎廣告吹聽的にする勿れ ◎百字以上を用ふる勿れ

▲海岸通りに韓人が乾柿を賣つて居ると一人の日本人が足で賣品を蹴つた夫れでも一向意に介せぬのである日本人の侮蔑も甚だしいが韓人の無氣力も稱贊の言葉が無い(見聞居士)▲僕の夢は何時でも夜明方に結ばれる(落葉の子)▲一日忙はしい仕事をキメテ枕に就く最うあれで死んだならと思ふあとがある其時はあれもやつて置けばよかつた是れもやればよかつたと思ふ事がある(山嵐生)▲或朝辨天通りを通ると二十一二の女が街路で泣いて居つたが何んで泣くのかは分明なかつた(通行の一人)▲一番強い人間は一番時間を善良に利用した人だと思ふ(英雄崇拜)▲釜山でも處々に樂舞をしてあるが風紀上甚だよろしくない(虎の眼)▲貴社の評判は頗るよい益々勉強せられよ(六花紛々)▲佐須士原に夜笛を吹いて神風樓の○拍子を尋ねる男は鍛冶町のやの字(雪の人)▲本町くだものやのおかみさんははたらき手だ(みの字)

## 魚市場 (二月四日)

水揚高 一千三百三拾六圓四拾錢
たひ 十貫目 [illegible]
おはぴ 全 拾六圓
さはら 全 拾六圓

ひらす 全 廿五圓
ひらめ 全 拾六圓
さわら 全 拾五圓
くじら 全 七〇圓

●釜山天氣豫報 北又西ノ風曇

現錢 十七割五分
手形 十七割

廣告

韓國鐵道旅行案内出版に付

廣告募集

京釜鐵道會社の全線京釜間京仁間の汽車發着時間表旅客賃金表貨物賃金表及び旅行中必要なる各驛の狀況名所舊跡案内等を網羅し來る十五日出版致し候尚ほ該書は販賣部數も極めて多數に上るべく隨つて廣告の効力も著しく候に付廣告掲載の希望者は來る十日迄に御申込相成度候

廣告料は前金を要し候

明治三十八年二月

朝鮮日報社

今般當地ニ支店ヲ設ケ鐵道貨物運送營業開始仕候

京城、仁川、永登浦ヲ始メ京釜鐵道主要各驛ニ本支店及出張所アリ御都合ニヨリ運賃著拂ニテ御取扱可致候京仁方面ニ於ル鮮熙野菜類海産物其他一切委托販賣ノ御相談ニ應ジ可申候也

京城稻田組運送部 釜山支店

草梁停車場前



西町三丁目

上西酒店

乳牛健康無比

純良牛乳

配達迅速便利

富平町廿四番地

稻尾牛乳店

移轉と入荷廣告

北海産 昆布、數の子、小豆、黑豆、色豆類

乾物類及鑵詰、茶、伊勢萬古燒竈元特約

拙店今般當所ニ移轉致し一層薄利を以て販賣可仕候間何卒御用向き奉願候頓首

釜山港南濱町二拾七番地

貿易商 日吉商會本店

大邱西門外市場

貿易商 日吉商會支店

開店廣告

弊店今回左記各種雜貨卸小賣商開業特別廉價販賣仕候間多少ニ不拘御注文之程奉希望仕候頓首

黃燐々寸 安全燐寸 洋鐵各種

白赤さらしあん 洋釘各種

硝子板各種 ショヘル カスガイ 其他各種

釜山港本町三丁目十九番地

石川勝治

大坂每日新聞 一ヶ月代 四拾八錢

萬朝報 一ヶ月特別大割引 三拾錢

幸町一丁目長手通 山口新聞舖

歐米時計各種 附屬品各種色々

電氣鍍金 金、銀、赤銅、ニツケル、保險付 修繕 確實

幸町一丁目

園田時計店 (電話二一〇番)




第壹回臨時販賣廣告

弊店は時局に鑑み左の方法を以て來る二日より紀元節まで向十日間賣上金の内原價を控除し利益の全部を恤兵部へ獻金の目的を以て花々敷販賣致候に付き右貿函を以て陸續御買求被下度廣告候也

○貳拾錢以上の賣品に對し景品を呈す

○金五圓以上御買求の方は特に新聞紙を以て御姓名を廣告す

○景品は御來店の上御一覽被下度候

明治三拾八年貳月一日

諸打刄物類 諸大工道具

大阪 (光) 下村釜山支店

釜山北濱壹丁目四番地

吳服太物

御春着用嶄新柄

各種取揃

原口釜山支店

電話七十二番

營業科目

京釜鐵道各驛旅客需用品販賣部

京釜鐵道貨物運送部

釜山港内便利部

出入港汽船乘客手荷物運搬部

其他葬儀部等を設け凡て何用を問はず諸彥乃需に應じ

電話は不日架設ス筈

幸町三丁目九番地

釜山赤組本部

草梁海岸通

赤組出張所

三⋯燒・打綿製造・鰹節・活油・蒲團

七島莚・薩摩薦

其他各地産物海手数料

釜山港南濱町

大成商店

廣告

今般當所製出致候牛肉ソープル去廿六日ヨリ左ノ價格ヲ以テ發賣仕候ニ付テハ御試用ノ上陸續左記ノ處ヘ御申込被下度希上候

一合瓶一本金貳錢

ビール瓶一本金六錢

配達申込所 南濱町廿八番地

製造所 釜山牧畜場所

平田秀吉

(電話一四九番)

特約販賣廣告

吳服太物類

右ハ今般下店義製産地と特約を結び何品に依らず特別大勉強を以て顧客諸氏の御注文に應し迅速御便宜を相計り可申候小口付何卒多少ニ不拘御用仰付被下度偏に奉懇願候

吳服問屋

大日本 吉崎本店

幸町長手通 吉崎支店

福島合名會社本店

幸町南濱通 福嶋支店

一手販賣係

富平町 森與三郎

清酒特約販賣廣告

藤正宗

大日本 吉崎善三郎 釀造場

特約販賣店

寺町 吉崎善造

富平町 森與三郎




官烟輸入元

大日本專賣局指定韓國

釜山幸町一丁目

文明 朝日 大和 きつすん 印刻煙草

齋藤支店

きりん印刻煙草 韓國一手販賣店

風邪良藥

妙振出し

安質比林丸

醫科器械類

和漢洋藥類

釜山本町

藥劑師 弓削靈藥舖

丁寧親切

南濱町六番地

柳井旅館

株式會社第五十八銀行釜山支店

(電話五十八番)

(爲替取組先)

東京 伏木 兵庫 柳井 嶋崎 長府 防府 大坂 敦賀 神戸 岩見 倉敷 周防 仁川 京都 富山 姬路 鹿瀬 門司 唐津 小郡 横濱 米子 網干 萩 福岡 京城 名古屋 尾ノ道 宇和嶋 下ノ關 伊萬里 阿知須

一般の銀行業務は精々御便利よ取扱可申候

東京直輸入

嶄新にして大流行品

はきもの たび類

特別廉價を以て販賣します

内山商店

電話二五六番

寫眞撮影

釜山全景其他各地景色寫眞韓人風俗數十種

長手通辨天町

平井寫眞館

勉強廣告

弊店開業以來日尚淺きにも不拘各位の御愛顧に依り日増繁榮に趣き候段奉感謝候依て此上一層の大勉強を以て販賣仕候間多少に拘不御買求の程偏に奉希上候

此外石灰竹瓦販賣仕候

南濱海岸通り

嶋末材木商店

東京御料理

麥とろ あそび

南濱海岸通り

(電話二一四四)

純良牛乳

健康無比

迅速配達

富平町

磯村牧場

(電話五壹)

會席御料理

仕出し

西町三丁目(電話一二三)

春日

滋養スープ

洋食

會席

御わし

花飯

茶碗むし

其他御好み應ず

幸町

養鷄舍

元祖鯛でんぶ、つる、がんかも、鯛味付、鯛鹽から

鯛味噌、鮑、鰻蒲燒、鱧蒲燒、牛肉、さざえ

製造卸小賣販賣之外御好に應し製造仕候

弊店儀拾有余年間鑵詰業ニ從事シ實地ノ功驗ヲ積ミ今ヤ軍隊御用ノ榮命ヲ賜リ總テ器械ハ最新式ノ物ヲ使用シ確實勉強仕貫客ノ御便利ヲ計リ左ノ諸店ト特約販賣仕候間續々御購求ノ程願上候

鯛でんぶ元祖 入江町六番地

加納商店

仁川 春武商店

仁川 井上商店

京城 牧野商店

日本長崎築町

糧食問屋

隈田商店

屛風 フスマ 表具類一切

調進所

西町三丁目三番地

岡田松月堂

蜂印葡萄酒

血を増し肉を肥し胃を健にする强壯的飲料は本品に如くものなし

韓國一手輸入元

釜山幸町一丁目

(合) 齊藤商店

電話番號一四四

齒科診察治療時間

一自午前八時至午後五時

但齒痛患者は此限りニ非ラズ

西町三丁目卅八番地

深江齒科醫院

(電話二百五十二番)

勉強廣告

通

國府洋服店

唐津石炭

ガラ 炭

辨天町一丁目

國安商店

電話一七一番